

藤 沢

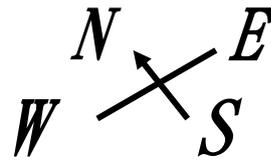
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2019年2月1日

第297号



主
な
記
事

- ・ブラジル持続可能な農業、地域振興の展望
- ・除染土はどこへ
- ・村岡新駅反対の意見に耳を傾けよ
- ・小笠原の海 # 3 ・地産地消エネDVD学習

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

FAX 0466-87-4922

改正水道法に思うこと

毎朝、蛇口をひねるとしばらく黄色く濁った水が流れ出る。築50年近い我が家にとって、水道管の老朽化は暮らしの中で直面している問題だ。

昨年12月の臨時国会で、改正水道法が成立した。老朽化した施設の更新や耐震化のための費用増大、人口減少による水道料金の収入減などから、自治体経営が困難になっている水道事業の立て直しを目指すという。そのため、水道事業の民営化を促進していくという法案だ。

そうか、我が家の黄色く濁った水もこれできれいになるのかも……。そんなことを思いながら、友人の勧めで『最後の一滴まで～ヨーロッパの隠された水戦争～』というドキュメンタリー映画を観た。

水道事業を民営化していた、フランスなどヨーロッパ諸国の実情を追った作品だ。この映画によると、2000～2015年の間に、世界37カ国の235都市で、民営化していた水道事業が再公営化されたという。その理由は明白。民営化で水質が悪化したり、水道料金が2倍や4倍に跳ね上がったからだ。その背景のひとつは、日本も採用したコンセッション方式(公共施設の所有権を自治体などが保有したまま、運営権を一定期間民間へ売却する方式)の大きな落とし穴がある。事業を安定させるための市場競争と、企業の利益と効率性の追求は、表裏一体なのだ。

水は命の根源だ。地球とすべての生き物を繋ぎ流れるものだ。しかし、この映画に登場する都市の蛇口をひねって出るのは、世界的企業へと流れる金だった。民営化された水が潤すのは、市民の暮らしではなく企業の懐。しかも、再公営化へ踏み切ったものの、契約期間未満という理由で民間企業から膨大な違約金を要求されている都市もあった。

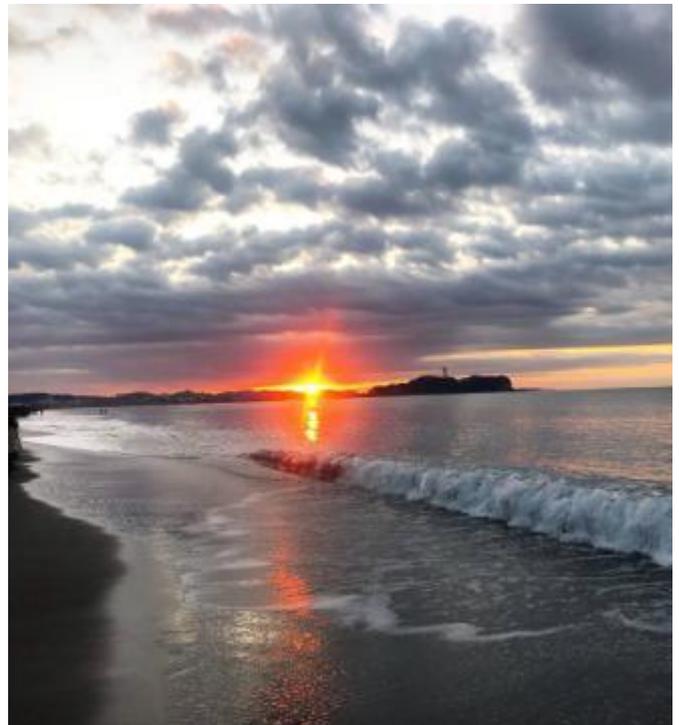
蛇口を閉めても、金は滔々と流れ出て行くのだ。

かといって、民営化を止めたところで水道事業が立ちいかなくなっていることに変わりはない。

水を“商品”にすることなく、公共の財産として守って行くにはどうすればいいのか。

蛇口だけでなく、智慧をひねらなくては。

(田島絵里子)



日の出 埴下瑞恵さん提供

村岡新駅反対の意見に耳を傾けよ

藤沢市村岡地区の武田薬品旧湘南研究所から南西にわずか 100m の所に新駅をつくることは当初からの県の構想でした。昨年暮れにはこの新駅設置の組織、スケジュール、費用などが市議会に報告され、新聞報道もされました。市の建設経済常任委員会で報告後すぐの 12/27 には、県知事・藤沢市長・鎌倉市長の三者からなる「村岡新駅設置協議会」を発足させ、新駅の設計工事及び設置費用負担等について、JR への要望を出すことを決め、さる 1/18 にはこの三者による JR への要望書がだされたところです。これには JR 側も「前向き回答」と報道され、今後 2019 年度中の概略設計の着手、そして約 1 年半後には JR 側の負担割合も決めた最終判断がされるというスピードぶりです。

これに対して以下 4 つの意見を述べます。

新駅づくりはムダ

- ①そもそも新駅そのものがこの工場誘致とセットで構想されたもので、初めから住民要望のものではない。
- ②藤沢と大船のわずか 4.6Km で、電車で 4 分の真ん中に駅はいらない。
- ③新駅つくるだけで 160 億円、周辺開発含めると総額 300 ～ 400 億円という大型開発はムダ。藤沢市の負担は総額の 1/3 としても多すぎる。お金があればくらしと福祉にまわすべきだ。



開発より治水対策を

- ④この地は 2014 年から「特定都市河川浸水被害対策法」の適用流域であり、開発よりも先に広域的治水対策を優先すべき。この点、県は未だに「境川流域水害対策計画」を素案だけで、策定はしていない。すでに改正水防法に基づき「想定最大規模降雨(632mm/24h)による浸水想定」では、この村岡地区・深沢地区の場合は 0.5m～5m の浸水想定となっており、この地を開発するには雨水貯留施設の設置の規制もあり、とてもこれだけの費用では足りず、開発費用は更に膨張することが充分考えられます。(木下薫)

地産地消エネルギー藤沢のこれからを考える

1 月 26 日に市民活動推進センターで DVD 上映とワークショップを行いました。

第 1 部 「激動する世界ビジネス“脱炭素社会”の衝撃」

パリ協定をきっかけに、二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする“脱炭素”社会に向けて大きく舵を切った世界。巨大企業は“脱炭素”を掲げ、マネーの流れも大きく変わりはじめています。この動きを決定づけたのは、世界最大の CO2 排出国、中国が“環境大国”を目指し始めたこと。これまで環境先進国を標ぼうしてきた日本、そして日本企業は生き残ることができるか？ その最前線は……。

アラブ首長国連邦の発電コストは、1kwh 当たり 2.6 円、およそ日本の石炭火力の 5 分の 1。世界中の巨大マネーが脱炭素化企業へ流れ始めている。(NHK スペシャル DVD)

参加者の感想

◆「温暖化対策は待ったなし！」◆儲かるしくみを見いだすこと、安い再生可能エネルギーが背景にある。藤沢ではどうか？◆日本は遅れている。国、自治体、企業、個人は何をすればよいのか？◆自分にとって何がメリットか？経営責任・株主の顔色伺い。補助金……◆そんなことしていると時流に乗り遅れるぞと競争原理がはたらくようになる。◆日本の省エネ、脱炭素の企業努力、日本の技術力をどう発揮するかは政府の姿勢が大きい。◆地球環境、気候変動、脱炭素についての理念は理解が深まっている。ビジネスとして世界が動き出している大きな潮流は、技術革新と共に、今後さらに進んでいくと思う。

◆本当にいいもの「世界の平和につながるもの」が欲しい。原発に頼りたくない。これに代わるものが見えてきてない。

◆脱炭素社会をめざすパラダイムシフト(転換点)に来ている、投資家・企業が「行動あるのみ」と動き出している。

◆藤沢市では、何をしたらよいのか？

◆この NHK スペシャルは見た方も多いと思いますが、改めて一緒に視聴し、課題、感想を共有できたことは今後役に立つと考える。

第 2 部「ワークショップ：私たちにできることは何か!？」

出された意見は藤沢市への要望: 5 つ、市民活動の方向や課題: 11 項目であった。

次回 2 月 16 日(土) 13:30 藤沢市民活動推進センター A 会議室にて行います 内容: 出された問題の具体化 (宮地俊作)

除染土はどこへ？

昨年12月に 飯館村放射能エコロジー研究会主催の「除染土はどこへ？」の報告とパネルディスカッションに参加しました。 糸長浩司教授 今中哲司教授ほか4人が報告しました。満席の会場で関心の高さがうかがえました。以下に概略を記します。

福島原発事故で放射能を含んだフレコンパック入り除染土が積み上げられたり空き地に埋め立てられたりしています。2011年11月に「放射性物質対処特措法」が閣議決定され2017年5月に追加改正され、除染土を埋立て地に戻す**実証事業**を進めるもので、除染土の放射線量8000Bq/kg以下のものを公共事業や農地造成に再利用できる方針を策定しました。環境省は「最終処分場の確保が困難なため」と言っているが実証実験施設は、実は最終処分場であると報告者は言っていました。

二本松市ではこの実証事業に「ふるさとを汚染土で汚すな！」と市民に広がり最終処分場にするなどの運動に発展し、事業がストップされました。環境省は地元の理解を得て利用するとの考え方であるが、地元には知らされず市議会で初めて明らかになったとのことです。

栃木県那須町では、地元紙の報道で初めて知ったのは2018年2月1日だった。ここでも住民には知らされないまま進められていました。住民は説明会を申し入れ、環境省はやっと6月に1回目の説明会を開き、実証事業であることを説明し、安全性を確認した上で基準を作り埋め立て処分を急ぐ方針であるとしました。住民は合意に納得できずにいます。

福島県飯館村は 2017年11月に、村が再生事業の実施を要望し、環境省と合意した。村内仮置き場にある除染除去土壌を再利用実証事業として、長泥地区特別復興計画が認定されました。資材のストックヤード、再生資源化施設を整備、中間貯蔵しフレコンパック218万袋、を埋め立て、覆土し、その後、農の再生ゾーンにおいて再生利用して農地を造成するというもの。河川の下流域には浪江町、南相馬市があり上流部での放射性物質の捨て場は責任問題、河川堤防管理、農地造成の土地は私有地であり公共事業とは言いにくいなど、いろいろ問題を抱えながら工事は進んでいます。

汚染土壌の問題は福島だけではなく。藤沢でも下水処理の汚泥に高放射性物質が含まれ、再利用が困難でした。当時、貯蔵施設を作りフレコンパックを積み上げた施設を見学しました。現在はセシウム濃度が下がり、再利用されているといえます。

(荒井)

ブラジルにおける持続可能な農業及び地域振興の展望

日本大学生物資源科学部 第33回国際地域研究所国際シンポジウム「ブラジル固有のマカウバ椰子アグロフォーレストプロジェクト」ブラジルにおける持続可能な農業及び地域振興の展望 - (Part II)が1月16日にありました。福島の子どもたちとともに湘南の会の顧問である日本大学糸長教授のご案内でブラジルとの国際シンポジウムに参加させて頂きました。

ブラジル・ビソーサ連邦大学の先生方のお話は、今回通訳が無く不安になりましたが、前回のシンポで目に焼き付いていた〈ヤシの木の下で牛が放牧される風景〉に、日本人のブラジル移民100年の歴史、日本の里山デザインの哲学が生かされているのだと、身近に学ぶ事が出来ました。

「マカウバ椰子と牧畜の森林農法」

ブラジルで一般的なマカウバ椰子は、アラビア椰子の半分の降水量で育つ。広大な牧草地の荒廃を回復させ、環境、社会、経済の面へ創意工夫が期待されている。

マカウバ椰子の葉は、林床に大きな影をつくらず、農業システムの上層を構成する。すると牧草の生育に必要な日光が地面に降り注ぐ。ビソーサ連邦大学の実験では、マカウバ椰子を植えた3年後に、その改善された土地に放牧が可能になった。農業システムの下層の牧草は、家畜の飼料となることと、土を侵食から保護し、土に含まれる物質や微生物を肥やす。

「マカウバ椰子とバイオエネルギー」

マカウバヤシ油はバイオ燃料生産に有望だが、まだ10%以下の利用で、80%は大豆やサトウキビを原料としている。食料競合との課題の中でブラジル政府は天候によりバイオ燃料のガソリンへの混合率20~25%で推移。現在トヨタやホンダなど日系企業も含む世界の自動車メーカーが、ガソリンとエタノールが混合可能なフレックス燃料車の製造と

販売に凌ぎを削っている。日本へも輸送コストや、混合ガソリンの法令の違いを乗り越え応用できないか！？

(野田美雪)



小笠原の海 #3

フランスの海洋探査船“タラ号”がサンゴの調査で世界を巡った結果、小笠原が最も健全に珊瑚が生息していた、とのこと。確かに世界に誇れる元気な海がここにはあるのだと実感しています。

昨夜は砂浜でアオウミガメの産卵が観られました。



(二見港内 水深2M ミドリイシの群生 2018.5)

ヨットベトナムは 5月15日3時小笠原を出港、5日後の21日(月)グアム着を目指します!

(武本匡弘 太平洋航海中からの発信)

放射能測定値 (市民計測)

(HORIBA Radi) 単位 ($\mu\text{Sv/h}$) 地上 50cm

1/3	石川 引地川沿い歩道	0.031
1/3	石川建設会社前道路	0.043
1/3	旧 I BM正門前	0.036
1/30	明治中学校南道路	0.044
1/30	// 畑	0.038

ECONET INFORMATION

第14回 福島っ子リフレッシュ in 湘南

今回も福島から親子を招待します。慶応大学滞在棟に3泊し、江ノ島見学、湘南台子ども館等で遊びます。3/24(日)~3/27(水) 皆さまのあたたかいご支援をお願いいたします **募金のお願い**

【ゆうちょ銀行間で】ゆうちょ銀行 記号 00270-8 番号 70820
福島の子どもたちとともに・湘南の会

HP⇒<http://fuku-refl-shonan.sblo.jp/>

ECONET INFORMATION

▲核兵器禁止条約で変わる世界

川崎哲さん(ノーベル賞受賞 ICAN運営委員) 講演
和田征子さん(日本被団協事務局次長) 報告

2月13日(水) 藤沢市民会館第一展示ホール 13:30-
参加費:500円

主催 ピースリレーふじさわ 電話 0466-36-8916

▲原発事故 8年甲状腺がんはどうなっているの?

講師 牛山元美医師 (さがみ生協病院内科部長 /
3.11甲状腺がん子ども基金 顧問)



3月2日(土) 14:00 資料代 500円

場所:かながわ県民センター11F コラボスタジオ
横浜駅下車 西口より徒歩5分

主催:いのち・神奈川(福島の子どもたちとともに・湘南の会加入)

要予約(先着順) E-mail koujouwg@gmail.com

参加申込み・問合せ TEL 090-5415-0552(高橋)

▲「モルゲン、明日」映画上映

ドイツ市民のエネルギー革命 坂田雅子監督 トークあり

2月15日(金) 15:00- 18:00- ¥1000 TEL 909-2650-8240

あーすぶらざ 5F 映像ホール 主催:ぶんぶんトークの会

▲藤沢エコネットから



◆学習会「地球温暖化防止のために
~地産地消エネ 藤沢のこれから」II

2月16日(土) 13:30- 市民活動センターにて

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 77 切込ネット

◆事務局会議 2月2日(土) 10:00~

ブラザむつあい

《編集後記》インフルエンザが藤沢市内でも大流行している。学校ではクラス閉鎖や学校閉鎖もあると聞く。

発熱が続き、他の人に感染させるのではないかと心配もあり、じっとして家でこらえるしかない。ほとんど雨が降らなかった1月には雪も積もらない乾燥した日が続いた。予防には毎日手をよく洗い、うがい、規則正しい食生活と睡眠等だというが果たして励行できるか? 科学者が書いた本に、異常気象がもたらす弊害によるものの中に感染症も含まれていたことを思い出す。(H)